



公開レクチャー記念インタビュー

理工系視点で、ビジネスにスパイスを

オペレーションズ・リサーチ 茨木智先生

___先生のご専門はどのような分野ですか？

私の専門分野は「オペレーションズ・リサーチ」といいます。オペレーション＝戦術、戦略であり、直訳すれば最適な戦略の発見・探索、すなわち人や企業が直面する様々な意思決定の場において、最適な選択を行うための判断基準やそのツールを開発する学問です。

___オペレーションズ・リサーチでの先生の研究成果は何に貢献するのですか？

商品が売れるのには理由があります。たとえばコンビニエンスストア。ある商品を買いに来た客に、ついでにべつの人気の商品を見てもらえばついでに買ってもらいやすくなります。商品を最適に陳列することが大切になります。私の研究では、隣り合う商品を同時に購入する確率をなるべく大きくするような配置を解析して棚の配置案を求め、従来の配置と比較しました。

___それはどういう結果だったのでしょうか？

その品物をよく買うお客さんの情報を取り入れた棚の配置の方が良い、という結果です。一見当たり前ですが、お客さんの情報を逐一考慮するとなると、棚の配置を考える数式が複雑になりがちです。複雑な計算は販売促進の現場担当者には敬遠されがちです。私は、現場の担当者が扱いやすいシンプルな手法でもこうした考慮はできますよ、と示してあげたのです。

___なるほど、現場で使いやすい方法を提案したということですか。

はい。例えばアルコール類は成人男性がメインですけど、アルコール類をどの棚に近づけるかの判断では、成人男性が買いそうな品物の棚を並べた方が良いわけです。しかし、その品物が他の購買層との結び付きがより強いのであれば、そちらを優先して、次点の品物との距離を縮めます。こうした配置がシンプルな方法で導けることを示したのです。

___先生の担当科目も「オペレーションズ・リサーチ」ですね。授業ではどんな勉強をするのでしょうか。

この授業は3・4年生向けの科目です。オペレーションズ・リサーチの手法を勉強するだけでなく、実際にテーマを与えて取り組んでもらうことにしています。例えば、昨年度は「名古屋市の施設の最適配置を考える」というテーマに取り組んでもらいました。瑞穂区の人口集中を考慮したとき現状の小学校配置は公平（＝生徒の総通学時間は等しい）か？」といったものや、「中区の消防署は移動時間が最小となるよう位置しているのか？」を議論したものなどがありました。



___授業で大切にしていることはどんなことですか？

「オペレーションズ・リサーチ」の先端的な研究は主に理工系の大学院で行われています。こちらの学部へ赴任した当時は、理論や手法を工学部のスタイルで授業していました。あるとき1人の学生さんから「この授業は経済学部での授業とも似ていないですね」と言われ、確かに他の講義とオーバーラップする部分がほとんどないことに気付きました。

___学生さんの意見に耳を傾けて授業方針を変更なさったのですね。

そうです。現在では、1・2年次に自ら講義をしている「経済数学」, 「情報処理論」に「オペレーションズ・リサーチ」と関連する部分をそれとなく含めて連続性を持たせています。パソコンへの苦手意識を取り除くために、表計算ソフトの扱いに苦手意識を持たないような様々な裏技集も伝授しています。文系学生が苦手意識を持ちがちな、数学的なものの考え方・価値観を持ってもらえるようにしています。

___最後になりますが、高校生の皆さんにメッセージをどうぞ。

経済学部をひとつのコースメニューとして見ると「オペレーションズ・リサーチ」はメインディッシュとは言えないでしょう。しかし、これからのICT化社会を考えると、理工系の研究者がどんなことを考えているか、取引先の製造部門のニーズは何なのか…このようなことを理解する能力を持つ営業は重宝されるのではないのでしょうか。メインディッシュの味を変えることのできるスパイスのように、「オペレーションズ・リサーチ」は、皆さんの持ち味をほどよく変えてくれるのではないかと思います。